

全日本ロボット相撲 全国大会

「ロボマガ」記者・^{きいだ}城井田 ^{かつひと}勝仁



相撲ロボットには、オペレーターが操縦するラジコン型と、ロボットが自ら行動する自立型の2つの部門がある。それぞれトーナメント方式で対戦が行われる。

自立型部門で優勝した田村友幸さん(ロボット相撲愛好会)(左)と、ラジコン型部門で優勝した田井浩基さん(香川県立三豊工業高等学校)(右)、どちらの部門も、優勝者には賞金100万円が贈られる。

2002年12月23日、東京の両国国技館で、恒例の「全日本ロボット相撲 全国大会」が開催された。

ロボット相撲は、その名のとおり、日本

の国技である相撲をベースにしたロボコンである。ロボットが対戦するので、実際の相撲ほどの多彩な決まり手はなく、土俵の外への「押し出し」しかない。そのルール

のわかりやすさと、ロボット同士がぶつかり合う迫力から、大人から子供まで多くのファンを抱える。参加者も多く、第14回となる今大会では、全国から約4,000台もの申し込みがあった。全国大会は、その中から各地区大会を勝ち抜いて、出場権を得た相撲ロボット128台(自立型64台、ラジコン型64台)で争われる。負けることの許されないトーナメント方式で行われるので、出場者も観客も息を抜けない対戦が続く。



二足歩行ロボット競技大会「ROBO-ONE」の公認審査員としても知られる西村輝一氏(西村ロボットクラブ)も、解説者として登場した。そのわかりやすい語り口は、ロボット相撲の面白さを倍増させてくれた。



ロボット相撲の勝ち負けはとてもわかりやすい。とにかく相手を土俵の外に押し出せばいいのだ。



長いアンテナを装備する相撲ロボットは、ラジコン型だ。この部門では、相撲ロボットの性能と同じくらい、オペレーターの操縦テクニックが勝敗を分ける。



自立型部門では、オペレーターが関与するのは立ち合いまでだ。それ以後は、ロボットに搭載されるマイコンの自立的な判断に勝負がゆだねられる。

自立型部門を制したのは
田村友幸さん(ロボット相撲愛好会)の「TMR-T5」

優勝した田村会長に引っ張られるかのように、ロボット相撲愛好会の面々が自立型部門を席捲する!

ロボット相撲大会は、2つの部門に分けてトーナメントが行われる。ロボットが自ら考えて戦う「自立型」と、オペレーターがコントローラーから指示を与える「ラジコン型」だ。

自立型の相撲ロボットの場合、土俵